

水稻技術資料No. 2

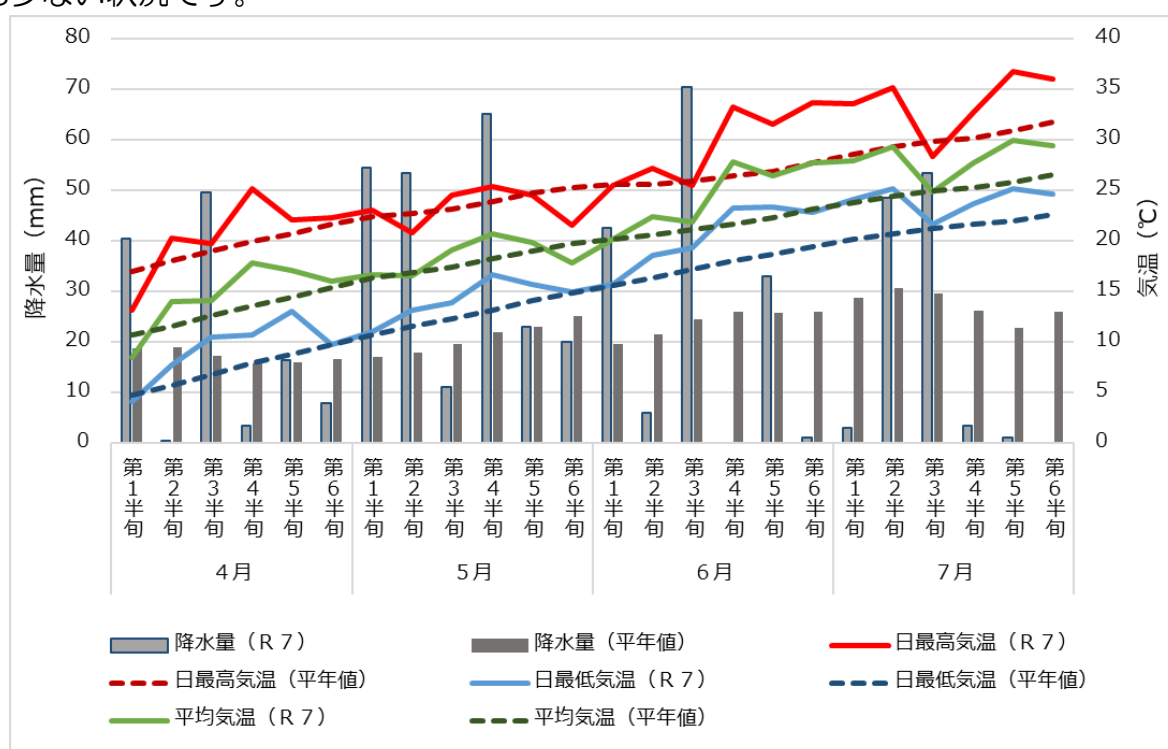
令和7年8月
下都賀農業振興事務所

今後の管理のポイント

- ①出穂期は最も水を必要とする時期です。水不足にならないよう、出穂後30日まで間断かん水を維持しましょう。
- ②イネカメムシの被害低減のため、ほ場をよく確認し、水稻の生育に合わせて防除を行いましょう。

1 気象の経過

4月上旬から現在まで、概して平年よりも高温で経過しました。
また、関東地方では6/10頃に梅雨入り、7/18に梅雨明けしました。降水量は平年よりも少ない状況です。



※小山市アメダスデータ

2 気象庁の1か月予報（7月31日発表）

今後も高温が予想されます

気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）			
気温	関東甲信地方	向こう1か月 08/02～09/01	10 20 70
		1週目 08/02～08/08	10 10 80
		2週目 08/09～08/15	20 30 50
		3～4週目 08/16～08/29	10 30 60
降水量	関東甲信地方	向こう1か月 08/02～09/01	30 30 40
日照時間	関東甲信地方	向こう1か月 08/02～09/01	30 30 40

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

3 水稻生育診断ほ（7月22日調査）の生育調査結果

(1) 早植 水稻生育診断ほ（小山市鏡）の生育調査結果

昨年と比較して、草丈が長く、茎数が少なく推移しています。

品種：コシヒカリ 移植日：5月3日	本 年 (7月22日調査)	昨 年
草丈(cm)	109.7	108.8
茎数(本/㎡)	406	467
葉 齢	12.5	13.0
葉色(葉色板)	4.0	4.0
生育診断値(葉色×茎数)	1,637	1,848

(2) 普通植 水稻生育診断ほ（栃木市皆川城内）の生育調査結果

昨年並みに旺盛な生育を示しています。

品種：とちぎの星 移植日：5月23日	本 年 (7月22日調査)	昨 年
草丈(cm)	82.4	81.8
茎数(本/㎡)	452	468
葉 齢	11.4	11.3
葉色(葉色板)	4.0	3.5
生育診断値(葉色×茎数)	1,811	1,647

4 出穂予測

早植え・水稻生育診断ほ（5月3日移植コシヒカリ）では、7月19日出穂しました。また、普通植・水稻生育診断ほ（5月23日移植とちぎの星）では、幼穂は6.6mmで出穂期は8月10日と予想されました。（7月22日計測）

昨年並に早い予測となっています。ほ場をよく確認しましょう。

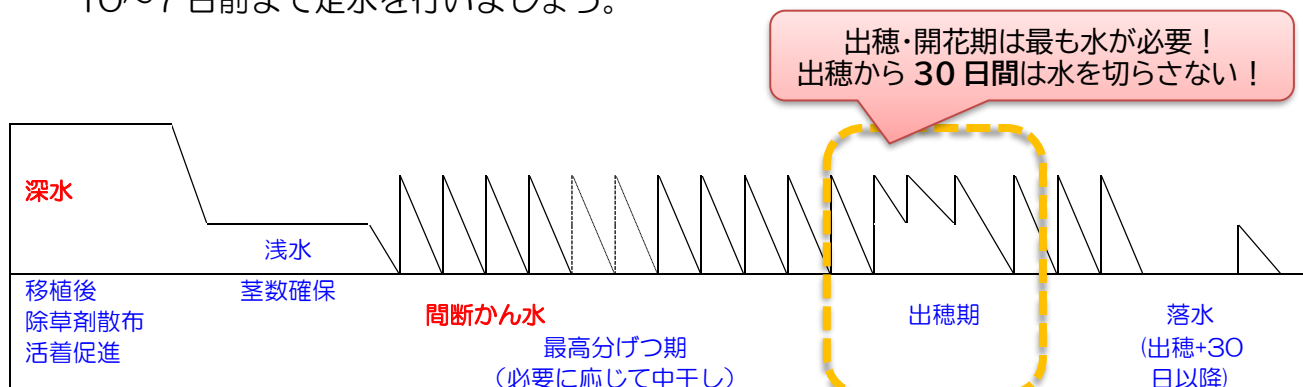
5 今後の栽培管理

(1) 水管理

出穂期は最も水を必要とする時期です。不足しないように注意しましょう。

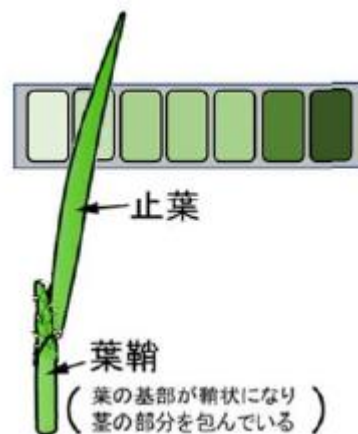
この時期に水が不足すると、受精や稔実に障害が起き、**籾数が減少します。**

- ・田面が乾いてひびが入る程の極端な中干しは避けましょう。
- ・高温が続く場合は夜間かん水等により地温の低下を図りましょう。
- ・**出穂後30日目までは落水しない！**落水後も高温が続く場合は、ほ場条件を考慮し、収穫10～7日前まで走水を行いましょう。



(2) 高温障害による品質低下を回避する施肥について
出穂後 20 日間の平均気温が 27℃を超える高温年の場合、出穂期から穂揃期の葉色が淡い場合は白未熟粒が発生しやすくなります。

品質を低下させないために、全量基肥を施用している場合でも、走り穂が出る頃の止葉葉色が、SPAD 値で 34 以下、葉色板で 3 を下回っていれば、速効性の窒素肥料で 2～3kg/10a の追肥を行いましょう。



6 カメムシ類対策（イネカメムシ・斑点米カメムシ類）

①イネカメムシ・斑点米カメムシ類の発生状況について

栃木県農業総合研究センターから、7月8日付けでイネカメムシの注意報、7月13日付けで斑点米カメムシ類の注意報が出されました。今年もイネカメムシ・斑点米カメムシ類の多発が懸念されています。

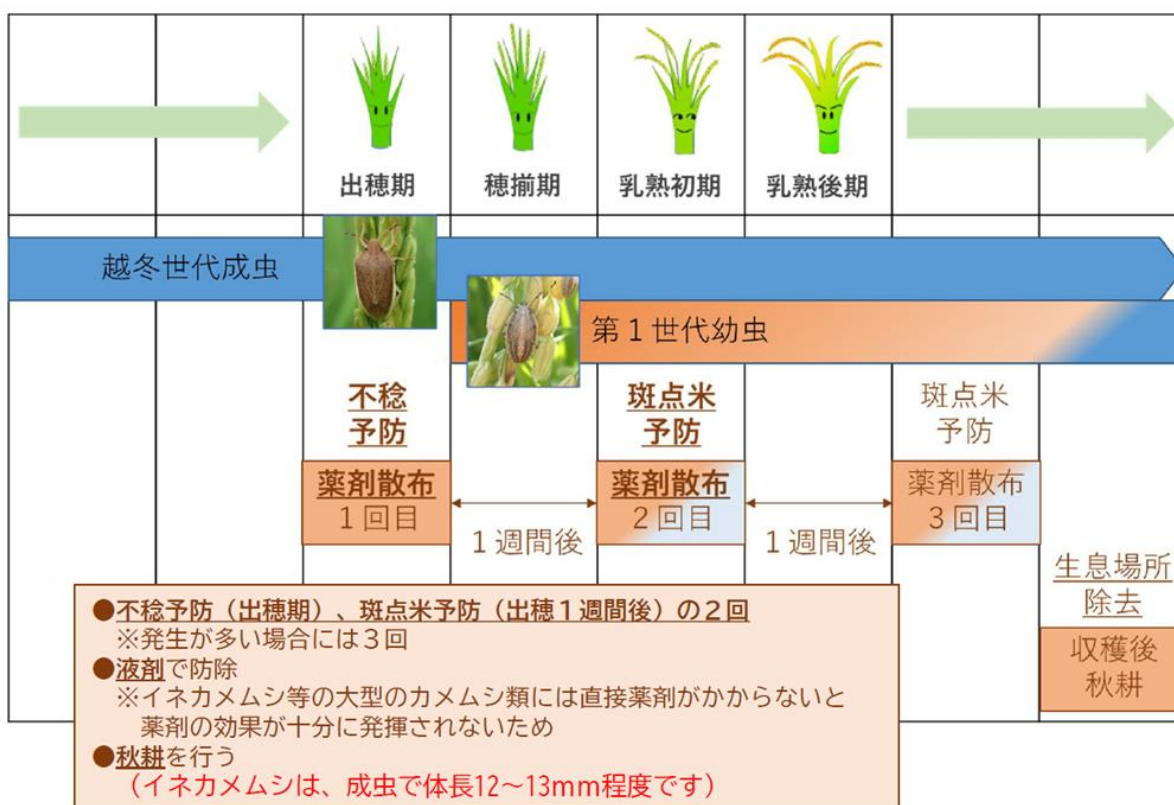
また、今年は生息地域が拡大しています。昨年被害が少なかった場合でも、注意が必要です。

イネカメムシは、出穂期の吸汁は不稔を発生させ、乳熟期の吸汁は斑点米の発生に繋がります。被害防止には、出穂期防除と乳熟期防除が必須です。

なお、今年の稲の出穂は、昨年並みに早まる可能性があります。

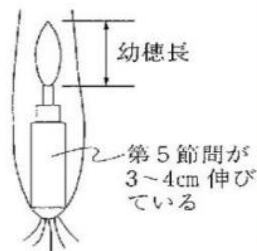
ほ場をよく確認し、水稻の生育に合わせて、適期防除を行いましょう。

②防除スケジュール



- 斑点米カメムシ類対策として、出穂 10 日前までの草刈りは有効。
- 液剤・粉剤は防除適期に散布する。
- 豆つぶ剤、粒剤は液剤・粉剤の2～3日前を目安に散布する。
- イネカメムシの発生が多い場合は、薬剤の使用回数に注意して追加防除を行いましょう。
- 斑点米カメムシ類の薬剤防除は、水田周辺のミツバチに影響を及ぼす可能性があるため、地域の養蜂家へ薬剤防除日を事前に周知する等の積極的な対応を行う。
- 餌と生育場所を無くすため、収穫後できるだけ速やかに秋耕を実施し、再生稲をすき込む。

カッターナイフで縦割りした図



出典：「安心イネづくり」
p66(農文協)

～出穂前日数の確認の仕方～

- ①平均的な生育の株を探します。
 - ②草丈の最も高い茎 1 本を根をつけたまま取ります。
 - ③左図のように、カッターナイフ等で稲の茎を縦割りします。
 - ④幼穂の長さを確認し、穂肥の施用時期を確認します。
- 例えば、幼穂の長さが
- | | |
|-----------|------------------|
| 5mm の場合、 | 出穂前約 20 日 |
| 8mm の場合、 | 出穂前約 18 日 |
| 20mm の場合、 | 出穂前約 15 日 |
| 80mm の場合、 | 出穂前約 10 日、となります。 |
- 生育のバラツキを考え、5 株程度、幼穂の長さを確認してみましょう。

カメムシ情報も
随時発信中！

栃木県農業防災LINEで
情報配信をしています！
友だち登録をお願いします！

LINE ID
@756bxcgu



7月～8月は「農作業中の熱中症による死亡事故」が集中します。
「自分だけは大丈夫」と思わないで、こまめな休息、水分補給を！

問い合わせ先

栃木県下都賀農業振興事務所 経営普及部 農畜産課 0282-24-1101
HP <http://www.pref.tochigi.lg.jp/g54/index.html>